

はしか麻疹の科学

医療豆知識

33

「ことしは、『はしか』が流行ってるんだって。おれは大丈夫かな？」という声を患者さんから聞きます。「はしか」は、江戸時代には天然痘、水痘とともに「人生のお役三病」に数えられており、死ぬ人も多かったので「命定め」ともいわれていたとこわい病気で

です。予防注射をするようになってかなり死亡率も減り、あまり強い病気という認識はありませんが、今年になって「はしか」の集団感染があちこちで起こっていると報道されています。実は、日本は先進国ではかなり多い国の一つで、いままでも年間2、30万人がかかっておりアメリカでは年間1000人程度、アメリカでは「はしかの輸出」と認識されているそうです。そして年間数十人が「はしか」でなくなっていたので、流行は今年に始まったわけではありませ

ん。流行の原因は、予防注射を受けていないことにあるようです。予防注射で死亡事故があったり、94年から集団でおこなわず

個別におこなうようになってから予防注射を受ける人がかなり減っていたようなので

す。特に、現在大学生の世代では予防接種による死亡事故などもあった影響で予防注射を受ける人たちが減っていたようです。

現在では、予防注射はかなり安全で100万人に一人重症な副作用がでるレベルだそうです。しかし、普通にかかれば数千人に一人が重症になるとのことですから、予防注射は受けておいたほうがよさそうです。

症状としては、はじめ38度の発熱と、鼻水、くしゃみ、眼がくしゃくしゃになるなどの症状が3、4日続くのでかぜと見分けがつかせません。でも熱が少し下がって治るかなと思いきや、もう一度39度の熱がでて全身にぶつぶつができます。「こ」で「はしか」とわかります。通常3、4日で治りますが、肺炎や脳炎になると重症になるので入院が必要になる場合もあります。

現在、インフルエンザのような特效薬はなく、いちどかかると熱が下がるまで養生するしかなさそうです。まだ、「はしか」にかかっていない人、予防注射をうけたか心配な人は一度ご相談ください。

【ことぶき共同診療所医師・鈴木伸】